

国際センター通信(No.117)

会長就任挨拶

6月10日に開催された総会において第110代会長に選任された。歴史のある土木学会であり、その重責を感じている。新型コロナによるパンデミックとウクライナ問題という世紀的な事態の中で土木学会のかじ取り役を担うことになった。このような世界的な課題解決に土木は関わりを持たずには済まない。この意味では土木学会としても注視していかななくてはならない。

土木学会はユニークな存在である。国内的には日本工学会から分離独立を最後までせず支えたからであり、国際的には産官学の技術者が集い技術活動を行っている数少ない存在であるからである。従って、土木学会の創立は他の学会より新しく、他の国では土木学会が存在していなかったり、あっても活動が活発でなかったりする事実が見られる。つまり、土木という総合的な分野の諸課題に対応することができる世界的に希少な組織なのである。学会員の皆さんには、この特徴を生かして国内外の課題に向けて土木技術者あるいは土木関係者として可能な貢献をするために土木学会を活用していただければ幸いである。

現在の日本の土木の状況は決して好ましいものではない。建設市場が長期的に縮小傾向にあり、研究分野としての土木工学が他の分野と比較して必要性が小さいと見られている。実はその原因が日本の土木の実力が海外の主要国と比較して劣っていることにもあると考えられる。家田前々会長の下「日本のインフラの体力診断」を行いその事実を明らかにし、谷口前会長の下「土木のビッグピクチャー」によって土木の将来像を示した。私の会長プロジェクトとしては、土木人材に視点をおき、研究者と技術者に日本の実力を把握してもらい、自分たちで議論しこれからグローバルな課題を解決できる人材として育つことができる道筋を作るためのプラットフォームを作る。さらに、海外が受け入れてくれる土木プロジェクトの創成の具現を目指す。

最後に、土木と同様に地位の地盤低下が見られる建築と協働して、日本の建設分野のあるべき姿を目指すために、2021年に作られた日本建築学会と土木学会との協働の仕組みを開始させることもお伝えする。この協働はグローバルな課題への対応にも重要である。

この1年間、新たな視点も加えて社会へさらに貢献する土木学会となるよう尽力する所存である。みなさんのご理解とご協力をお願いするとともに、ご意見などを土木学会(「多門に多聞&多問」：<https://committees.jsce.or.jp/chair/>)に寄せていただければ幸いである。



Photographer: Rumiko Ito

第110代会長
上田 多門

スエズ運河橋維持補修プロジェクト

世界有数の大型船舶が渡河するスエズ運河橋は日本の無償資金協力プロジェクトとして 2001 年 10 月に完成した。砂漠と運河に建設されたこの橋は、橋脚の高さがクフ王のピラミッドと同じ約 140m (桁下クリア 70m)、形状はオベリスク(古代エジプトの記念碑)をイメージした古代エジプト風の壮大な斜張橋で、エジプト本土とシナイ半島を結び、アフリカ大陸とアジア大陸を結ぶシンボルとして物流・交流の促進と地域発展に大きく寄与する重要な路線となっている。



スエズ運河橋

開通から 8 年強が経った 2010 年に橋脚および舗装の一部に損傷が確認され、日本によるフォローアップ調査を受け、2012 年から 2016 年にかけて下部工、舗装、鋼床版の補修工事がフォローアップ協力工事として実施された。

下部工については、特に橋脚の損傷が著しく表面コンクリートの剥離、鉄筋腐食は日本では見られないほど大きなものとなっていた。その原因は橋梁東側にある大きな塩田、夜間の低温による大量の結露によるものであることが判明した。補修工事は、損傷部および鉄筋錆の除去を行い、補修用モルタル充填、表面コーティングを行った。

舗装下の鋼床版の損傷は、軍の頻繁な重車両の走行（採取した岩を搭載し、50～60t と推定される）によって舗装にクラックが発生し、結露による水の侵入（乾季にも排水桝に多量の水を確認）に

よって鋼床版に錆が発生した事が主な要因と推測された。補修方法は、検討の結果同国での実施例で約10年以上健全度を保っている密粒度アスファルト舗装を採用した。

スエズ運河橋の一連の調査、補修工事はいかにエジプト国建設省（GARBLT）のエンジニアに維持管理の重要性を認識してもらい、今後また起こる可能性のある補修工事を自国技術者・施工業者で実施できるかに着目して指導・施工管理を行った。

橋梁の維持管理の重要性は皆認識しているところであるが、本業務を通じてその国の実情や維持管理を行う組織の技術力に見合った適切な維持管理方法を提案することの難しさを認識させられた。となく日本の技術力を途上国に押し付けがちであるが、その国の実情に合わせ、かつその国のエンジニアを育てる視点での協力が肝要である。

下部工補修工事査



橋脚の錆発生状況



鉄筋錆の除去



エジプト人技師による錆防止塗装検査



補修モルタルの注入



エジプト人技師による日本企業工事の検査



エジプト人技師による現場見学会の説明

舗装・鋼床版補修工事



舗装クラック



鋼床版表面の錆発生状況（その1）



鋼床版表面の錆発生状況（その2）



鋼床版減厚の測定



サドブラストによる鋼床版表面処理



鋼床版表面処理後のプライマー塗布

【記： 向山 辰夫（(株)オリエンタルコンサルタンツグローバル）】

2021 年度土木学会国際関係賞



2021 年度土木学会賞表彰式

土木学会賞のうち国際関係の賞である、土木学会国際貢献賞、国際活動奨励賞、国際活動協力賞が、国内外の土木技術者 28 名に授与された。うち海外から国際活動協力賞に 7 名が受賞者となった。各賞の受賞者は以下の表のとおりである。

(参考：http://www.jsce.or.jp/prize/prize_list/p2021.shtml)

＜国際貢献賞＞ 計 4 名

日本国内外の活動を通じて、国際社会における土木工学の進歩発展あるいは社会資本整備に貢献し、その活動が高く評価された日本人、並びに日本の土木工学の発展あるいは日本の土木技術の国際交流に貢献したと認められた外国人に授与される。

氏 名	所 属
北 直紀	清水建設(株) 土木総本部 特別理事
中川 泰	鉄建建設(株) 技術顧問兼ダッカ MRT 作業所長
成瀬 進	宮地エンジニアリンググループ(株) 取締役
廣木 謙三	政策研究大学院大学 教授

＜国際活動奨励賞＞ 計 17 名

海外における土木工学の進歩発展あるいは社会資本の整備において、現地での土木技術の発展に寄与し、国際貢献への活動が今後とも期待される日本人に授与される。

氏 名	所 属	氏 名	所 属
浅田 薫永	(株)オリエンタルコン サルタンツグローバル プランニング事業部 交通計画部長	竹村 祐一	清水建設(株) 土木国際支 店 土木第二部 ウガンダ カンパラ交差点改良工事 現場代理人
太田 耕一	関西電力(株) 再生可能エネルギー 事業本部 開発グループ マネジャー	内藤 晃司	(株)建設技研インター ナショナル 都市・環境部門 上席技師長
尾留川 剛	電源開発(株) 国際営業部 技術室 土木タスク総括マネー ジャー	深見 秀樹	(株)大林組 北米支店 グアム事務所 所長
久田見 治	大日本土木(株) 海外支店 土木部作業所長	光畑 太	東日本旅客鉄道(株) 国際事業本部 海外鉄道事業部門 新規事業構築 G 副課長
小滝 功	飛島建設(株) 首都圏土木支店 米山トンネル補強 作業所 工事主任	森 弘継	(独)国際協力機構 社会基盤部 技術審議役
小林 健一郎	神戸大学 都市安全研究センター 准教授	八尾 光洋	国土交通省 道路局 企画課 国際室長
小柳 桂泉	(独)国際協力機構 社会基盤部参事役兼 運輸交通グループ 課長	山下 大	五洋建設(株) 国際部門 国際土木本部 土木事業部 担当部長

佐々 真志	(国研)海上・港湾・ 航空技術研究所 港湾空 港技術研究所 地盤研究 領域 動土質研究 グループ長	吉川 賢次	Kajima Overseas Asia (Singapore) 建設部 プロジェクトマネージャー
曾田 暢一	大成建設(株) 国際営業本部 スリランカ連絡所・ パキスタン連絡所 所長		

＜国際活動協力賞＞ 計7名

日本国内もしくはその他の国において、日本との交流・協力を通じて土木工学の進歩発展あるいは社会資本整備に寄与し、今後とも活躍が期待される外国人に授与される。

氏 名	所 属
Kartasasamita Teddy 正典	日本工営(株) コンサルティング事業統括本部 交通運輸事業本部 交通政策事業部 副技師長
Nguyen Quoc Thai	(株)オリエンタルコンサルタンツグローバル 道路計画部 課長 西バングラデシュ橋改善プロジェクト (WBBIP) 副チームリーダー
Nguyen Trung Viet	チュイロイ大学 教授、副学長
戴 建国	香港理工大学土木及環境工程学系 教授、副系長
ノエル アグアス (Noel Sun Aguas)	大成建設(株) 国際支店 フィリピン・南北通勤鉄道事業 CP01 工区(土木)工事作業所
Panganayi Cleopatra	(株)オリエンタルコンサルタンツ グローバル道路技術部 課長
Jan Dirk Schmoecker	京都大学 工学研究科 都市社会工学専攻 交通マネジメント工学講座 准教授



2021 年度 国際活動協力賞 お祝いの会

お知らせ

【今後の予定】

◆第 10 回 技術者ラウンジ “DOBOKU” (7 月 22 日)

<https://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/284>

◆「海外事業における長大橋技術・ヒトの継承と発展」シンポジウム (8 月 5 日)

https://committees.jsce.or.jp/2022_Presidential_Project02/node/13

◆2022 年度 土木学会全国大会 国際関連行事 (9 月 14～16 日)

<https://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/286>

◆令和 4 年度 土木学会 会長室

<https://www.jsce.or.jp/president/index.shtml>

・「多門に多聞 & 多問」* 上田会長へのご意見、ご質問をお待ちしております。

<https://committees.jsce.or.jp/chair/node/59>

◆JSCE-ASCE Infrastructure Resilience Research Group ホームページ

<https://www.infraresil.jp/>

◆「海外インフラプロジェクトアーカイブス (JSCE ウェブサイト英語版)」

<http://www.jsce.or.jp/e/archive/>

◆「国際センターだより」※JSCE ウェブサイト (日本語版)

http://committees.jsce.or.jp/kokusai/iac_dayori_2021

◆JSCE Concrete Committee Newsletter No.65, May 2022

<https://www.jsce.or.jp/committee/concrete/e/newsletter/newsletter65/index.html>

◆第 181 回論説(2022 年 6 月版) オピニオン

(1) 技術の伝承・人材の育成～先輩技術者としての責務

<https://note.com/jsce/n/n9250d4fe7c03>

(2) 建設コンサルタント業界における人材育成についての私見

<https://note.com/jsce/n/n57a733df75b6>

◆土木学会誌 2022 年 7 月号 ※JSCE ウェブサイト (英語版)

<http://www.jsce-int.org/pub/magazine>

◆2022 年度 第 4 回 海外インフラ展開人材養成プログラム (主催：政策研究大学院大学)

<https://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/283>

◆【予告】留学生のためのサマーセミナー開催予定 (主催：政策研究大学院大学)

https://www.grips.ac.jp/jp/about/collaboration/joint/summer_s/

◆第 5 回 JAPAN コンストラクション国際賞: <https://www.mlit.go.jp/JCIA/award/5/>

◆第 9 回アジア土木技術国際会議: <https://cecar9.com/>

◆The 9th International Conference on Flood Management (ICFM9)

<https://www.icfm9.jp/index.html>

◆【9 月 27～29 日】The 4th Asian Concrete Federation (ACF) Symposium on Emerging Technologies for Structural Longevity (ACF2022_ETSL)

<https://acf2022.aconf.org/index.html>

◆European Council of Civil Engineers: <http://www.eccengineers.eu/>

◆米国土木学会(ASCE) 関連

・【10月23～26日】ASCE Convention 2022

<https://www.asce.org/education-and-events/events/meetings/asce-convention-2022/>

配信申し込み

「国際センター通信」配信希望者 登録フォーム

- ・日本語版: (<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/31>)
- ・英語版: (<http://www.jsce-int.org/node/150>)

英語版 Facebook

直近の国際センターの活動について紹介しています。

(<https://www.facebook.com/JSCE.en>)



【ご意見・ご質問】JSCE IAC: iac-news@jsce.or.jp 皆様のご意見やコメントをお待ちしております。